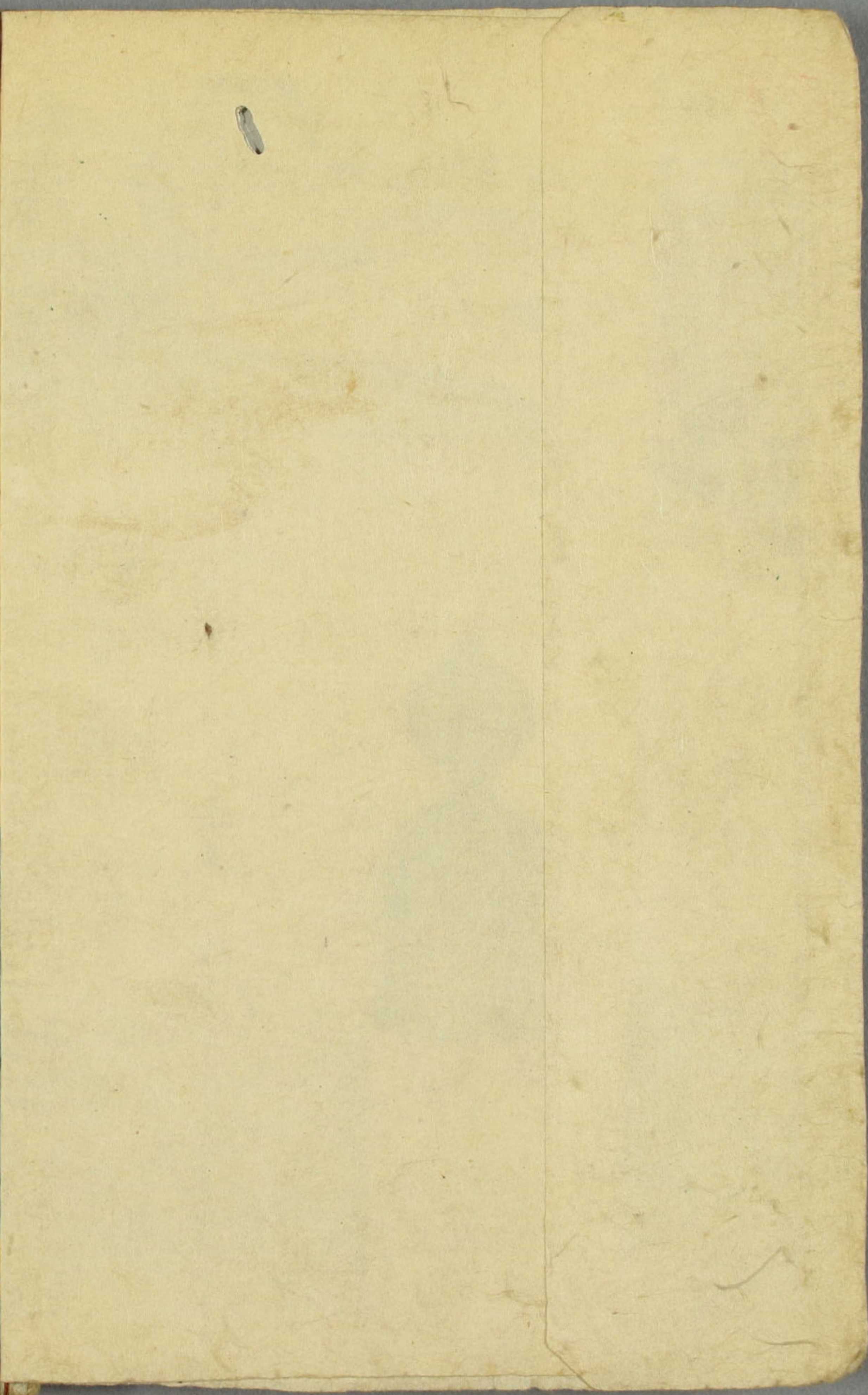


石田文庫
三
免

~13
3836
10





836
10

儀文庫

廿五篇
上之巻

万亭應賀作

一壽齋園貞畫

春新梓



上州屋重蔵板

釋迦八相倭文庫二拾五編序

一經小曰中天竺迦毗羅衛國於四月八日釈迦菩薩と誕生
却長丈六尺也四月九日難陀と生長丈五尺四寸白飯王四月八日
調達を生長丈五尺四寸四月十日阿難を生長丈五尺二寸斛飯
王摩訶男阿那律を生甘露飯王及々跋提を生介へあまこと
是を證ふ採む又一經の調達の本名調婆達多也則提婆
達多のことありされば是を正として折指太子名を改め阿闍
世太子と号より釈迦如未寂場樹下を廓然大悟の空寂迄
と予空寂の我心より折指く法の道草に眼覚しは著せと拙
き噂小若から只々嘖とさる而已ふと我

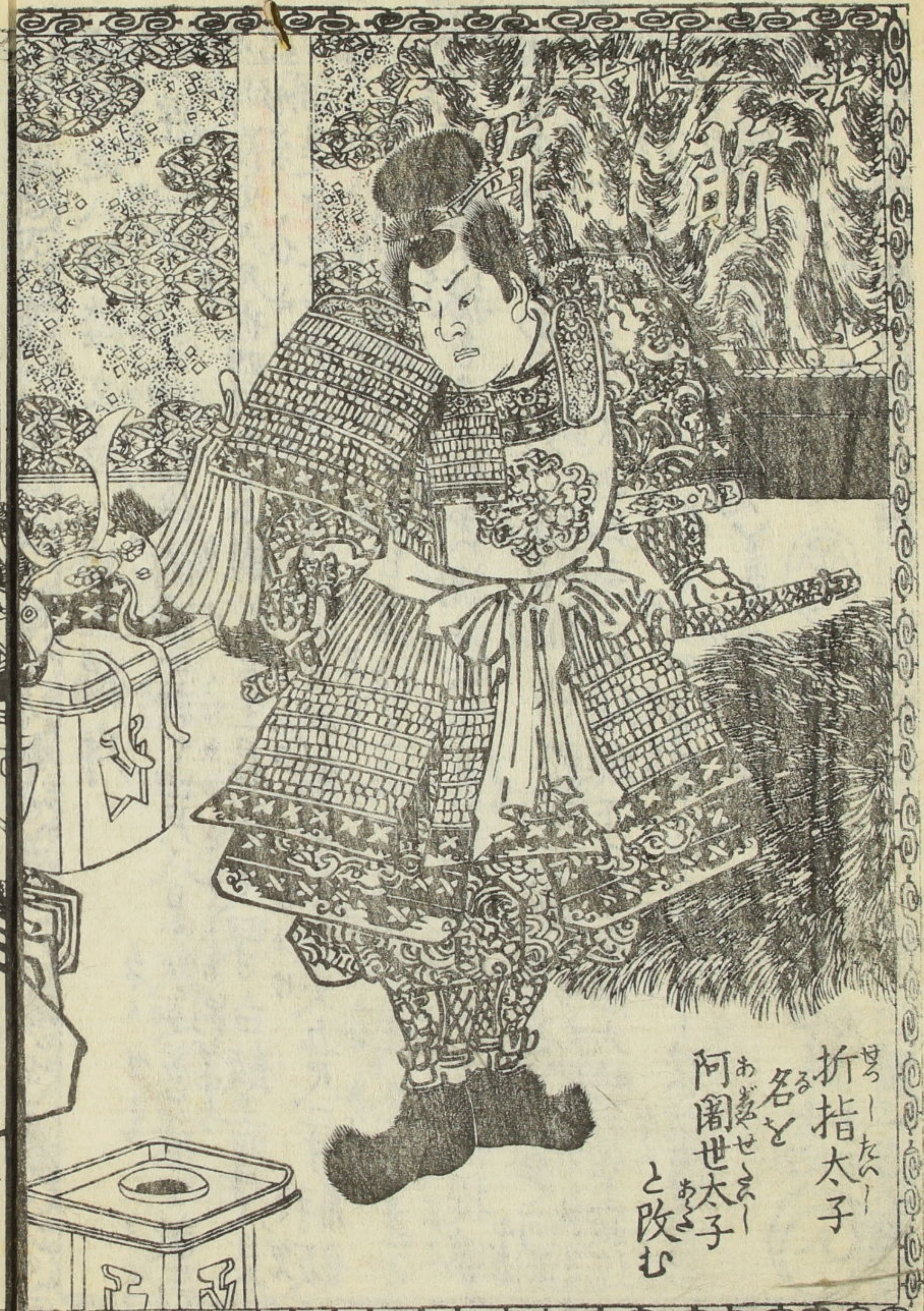
嘉永六年
癸丑孟陽

万亭應賀誌

類波女沙羅王の子折
 指太子波牟天聖の山中
 小待倉と侍女の為災
 難不逢提婆達多
 靈芝を取んとて折
 彼山小末の太子と助て
 家小成で所有外道魔
 術と見せしめ己身方不
 るをえ為小養育て鏡
 の着初と賀し名を阿
 闍世太子と改む尚も
 魔法と学む



提婆達多
 又一名
 調達
 と云



折指太子
 名と
 阿闍世太子
 と改む

悉達太子雪山の寂場樹下
 千度の物語を聞臘月八日
 の曉明星の光と戴冠
 雪山を出る

三界の大教主
 釋迦牟尼如來



空寂仙

曲の因位





いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは

いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは

いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは

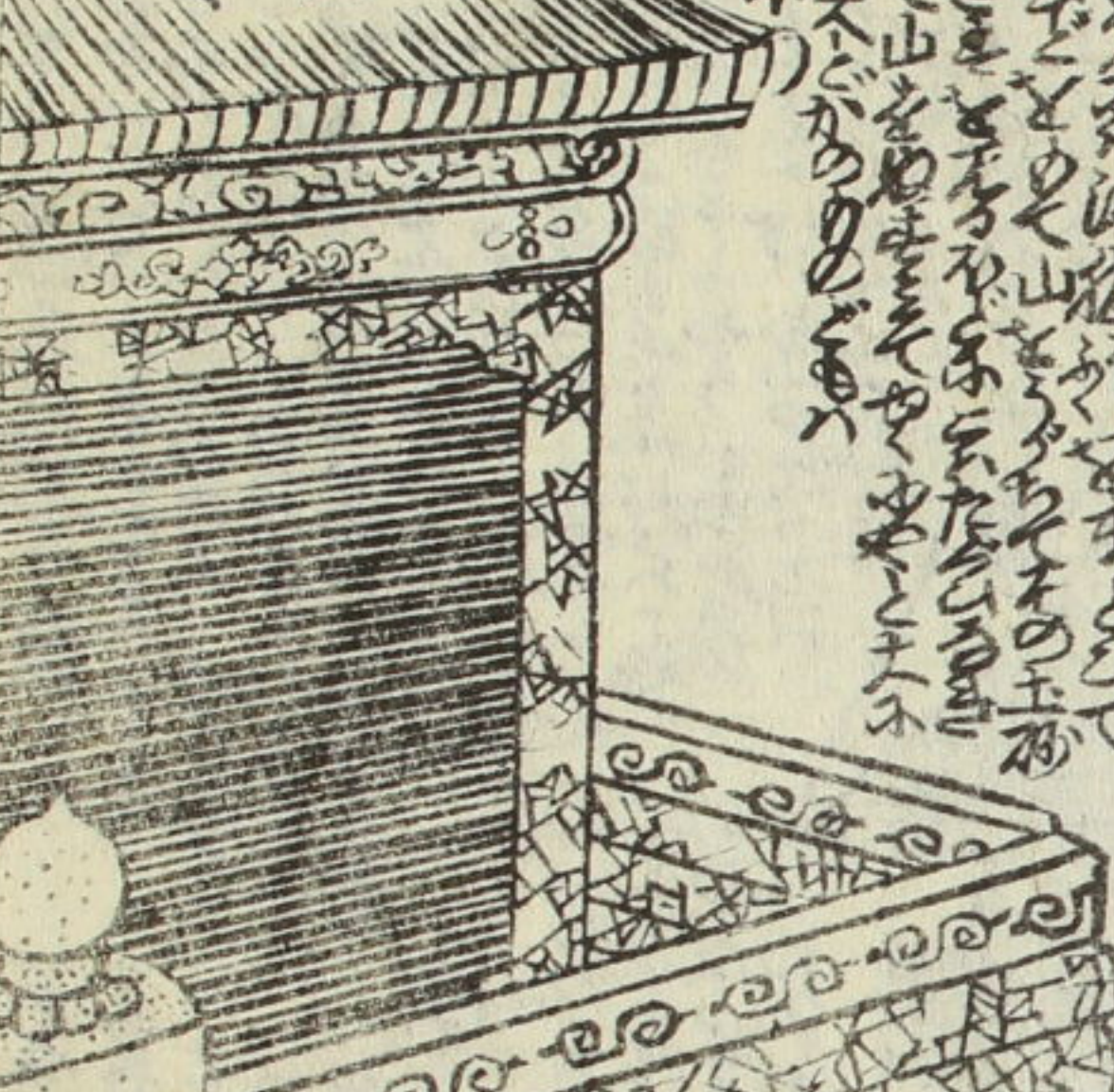


いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは

いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは

いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは
いふは

その東方



金剛

金剛

金剛

この山は... 昔の王は... 今も... 山は... 昔の王は... 今も...



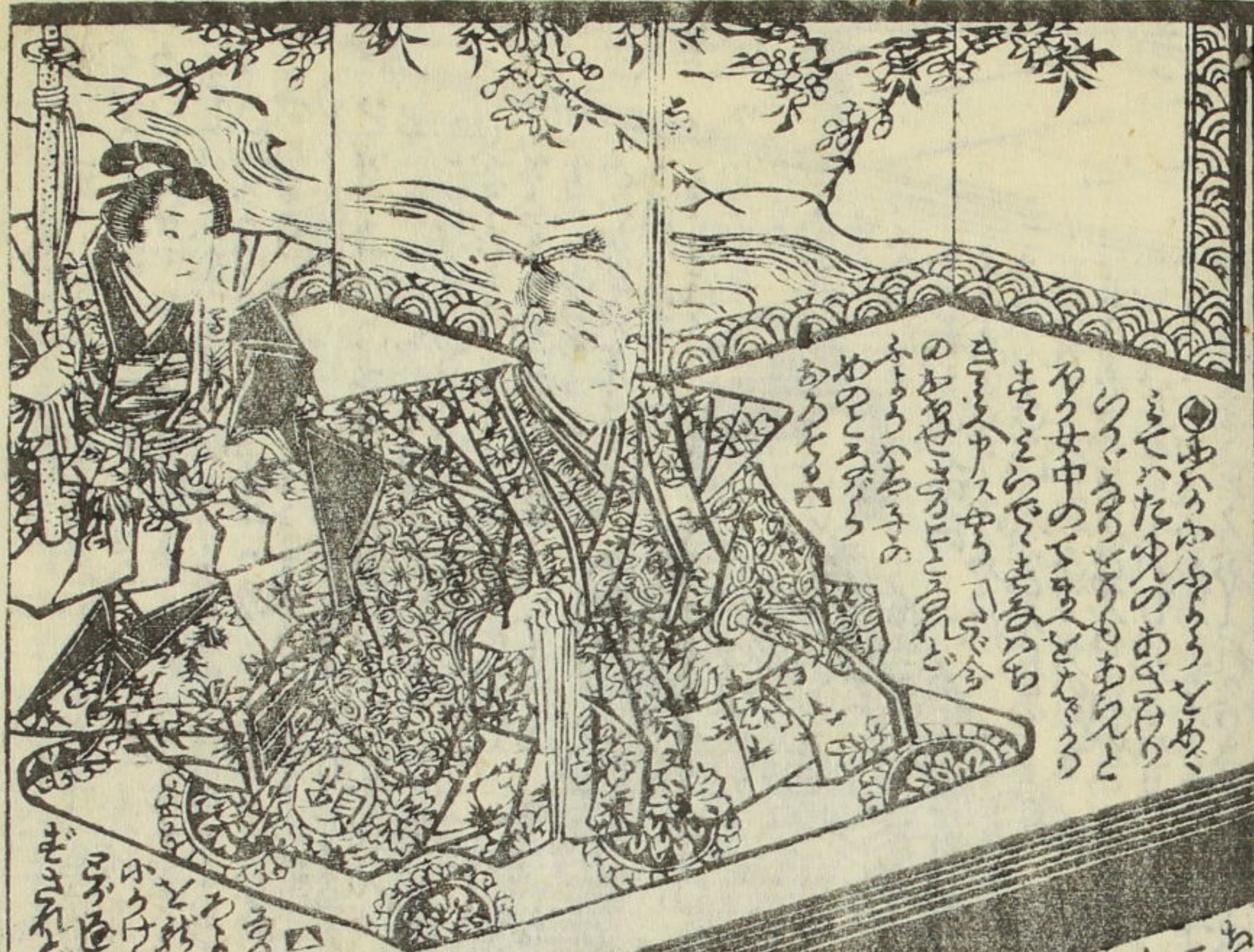
この山は... 昔の王は... 今も... 山は... 昔の王は... 今も...

この山は... 昔の王は... 今も... 山は... 昔の王は... 今も...



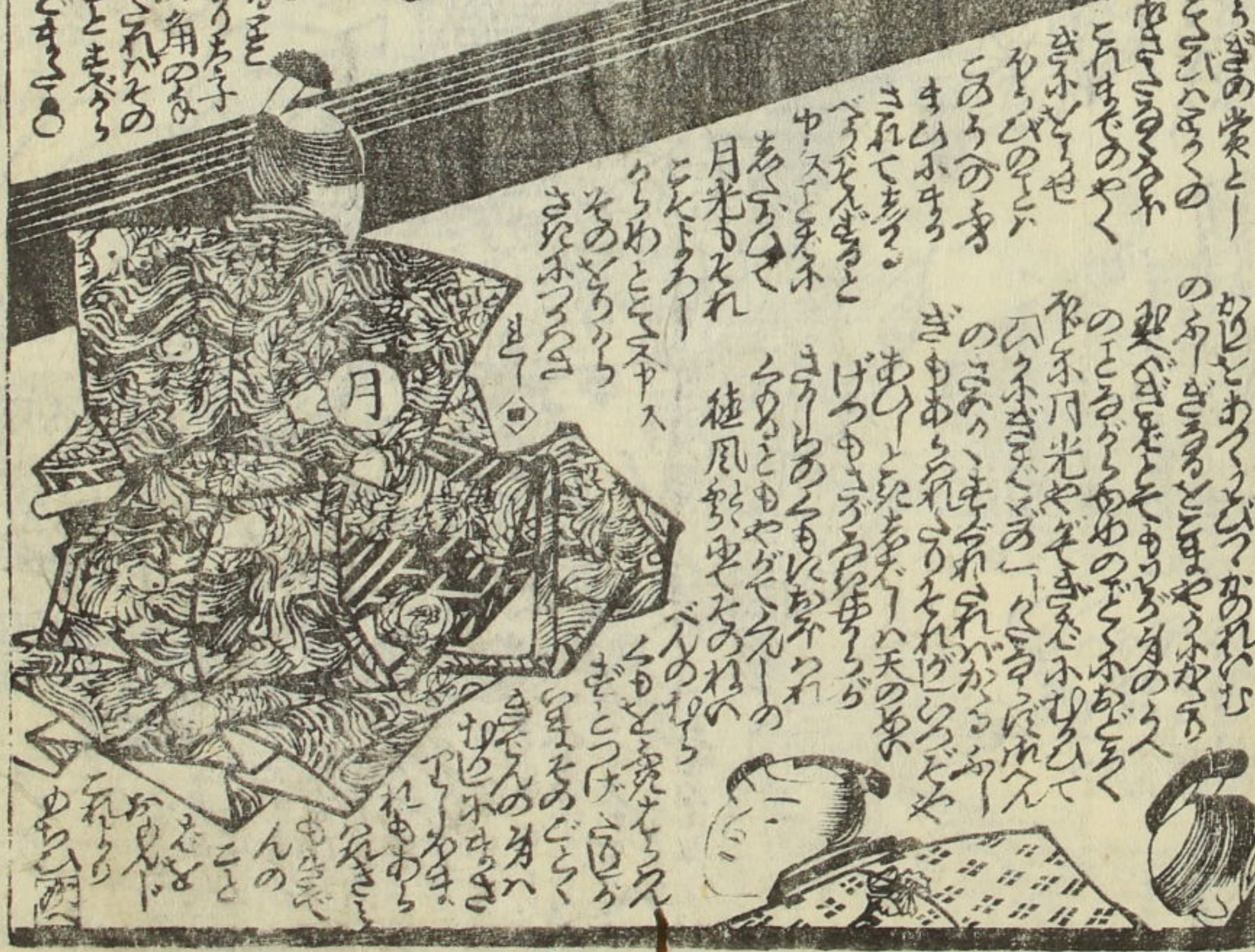
この山は... 昔の王は... 今も... 山は... 昔の王は... 今も...

この山は... 昔の王は... 今も... 山は... 昔の王は... 今も...



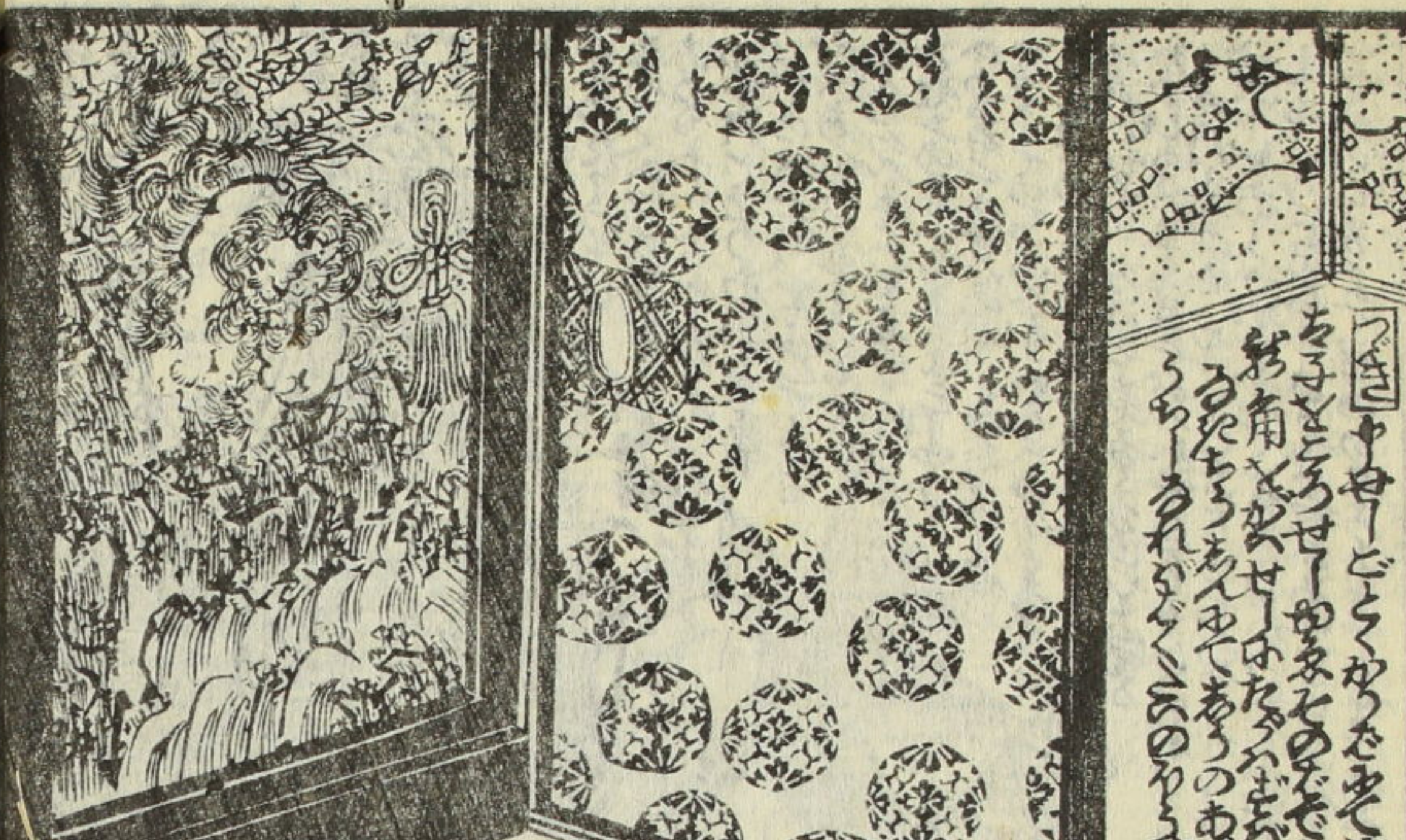
あつたかやううとめ
 とていたゆのあつたか
 つたあつたあつたあつた
 やつあつたあつたあつた
 まつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた



あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた



あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた



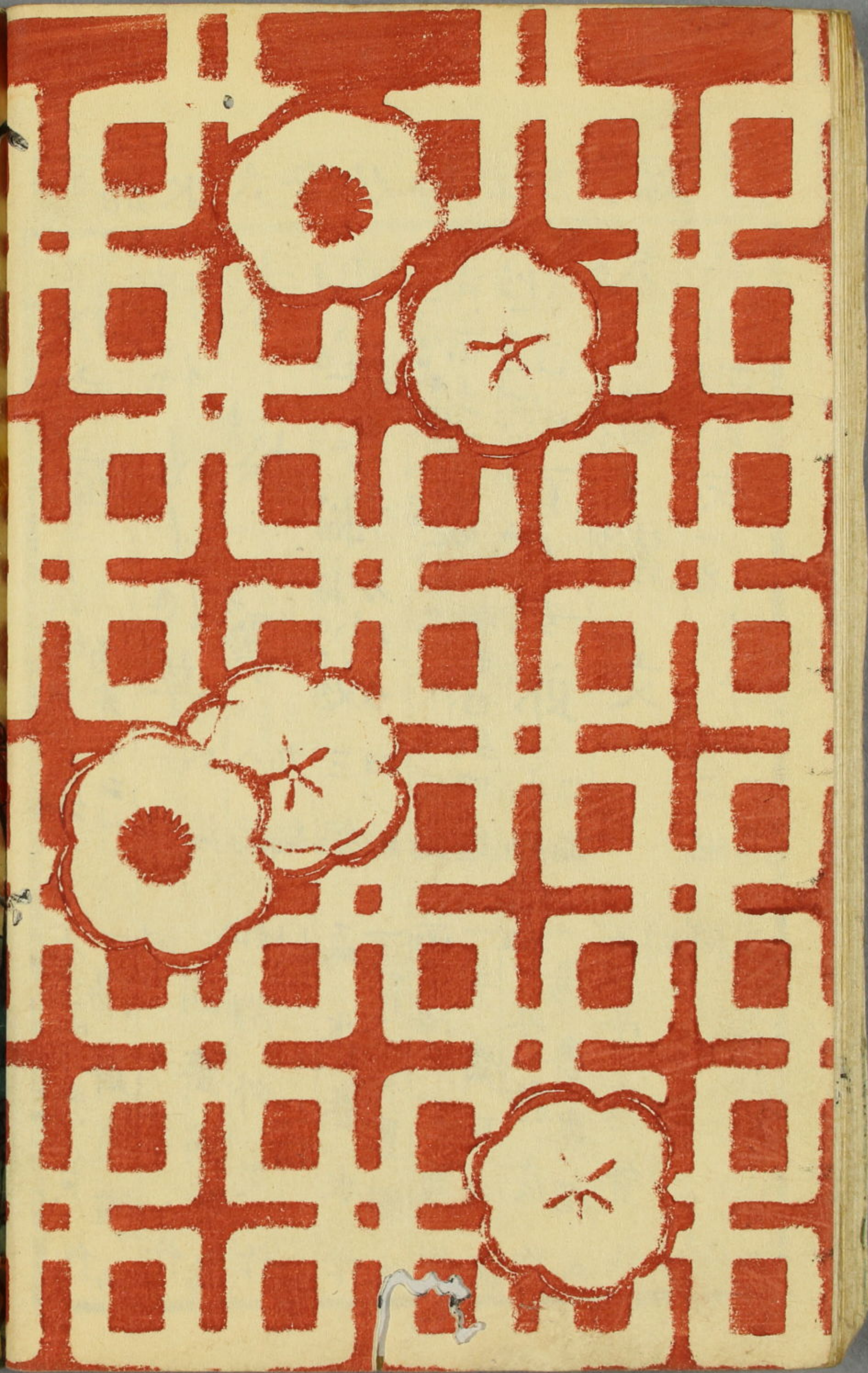
あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた

二世歌川貞画

弁題曲三國五

倭文庫二拾五編







七千五歳... 八千度の内... 薩埵王子... 未の因位... 釋迦如... 八千度の内... 薩埵王子... 八千度の内... 薩埵王子...



七千五歳... 八千度の内... 薩埵王子... 八千度の内... 薩埵王子... 八千度の内... 薩埵王子...

八千度の内... 薩埵王子... 八千度の内... 薩埵王子... 八千度の内... 薩埵王子... 八千度の内... 薩埵王子...



いんがのこころを山中の無きはらへしとて
こもるもあまのたのめり又紅蓮花の
よへりかへり王子のまじりてあまの
なほとて王子一命とまじりてあまの

念王初に宝花の
つては十八の
たふひの

あまの
あまの
あまの



念王初に宝花の
つては十八の
たふひの

念王初に宝花の
つては十八の
たふひの

念王初に宝花の
つては十八の
たふひの

念王初に宝花の
つては十八の
たふひの

念王初に宝花の
つては十八の
たふひの



倭文庫二拾六編

万亭應賀作

弁題曲五國包

上



倭文庫二拾 六編上之卷

應賀作
國貞画

丑之春
新梓行
錦重堂版

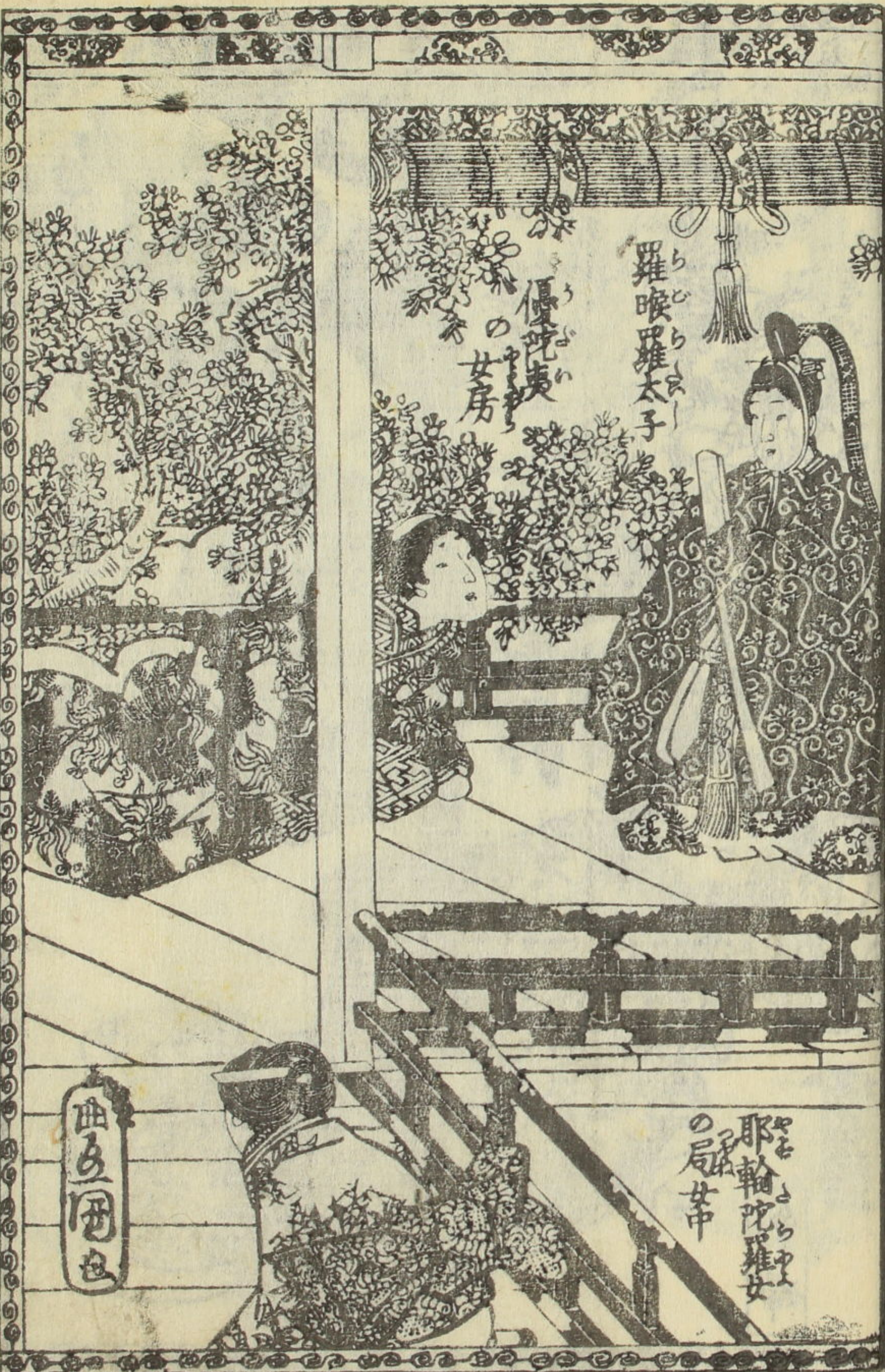
釋迦八相倭文庫二拾六編序

或人予小問て曰く此冊子の釈迦八相と題し如未の傳記大の遠く又年月合さるるものあり又六編の序の始に却説と稱し如何なる程の事か予は曰く三事此皆理あり我採て證とせし然れ故程の説を括著して原より大人の圖ありて假名手小の遠くといふに唯少男女の目覚某今採の人情と司と一俗語とのつゞきの事なり予も太子の出世表ありて六編に限るべからざる年月を正しえとされ前後書離て童蒙の足る不慮しければその場よとて先と採揚一編の中結とあり縦令一編の草紙のうちに太子と王宮のことあるも年月緯毎合さるる及も又合さる場ありその所の遠もこれ為準ん都て太子のありて因の太子の事とて人ごとく不續づけたる事亦一編の叙の却説の事も無粹に二多他人のありて野生をいかに拙き本とて此の序文も実とて居る間もこれ傍客の事不随せ或は備書の筆勢の任事ともありて其の意のなるを述べる人後小の事又その人と美ふ此後ともこれ其の改めたる所力あると強情述て帰る處看官方もその意して出後をされてくべきなり

吉嘉永六癸丑年孟陬開市

萬亭應賀誌

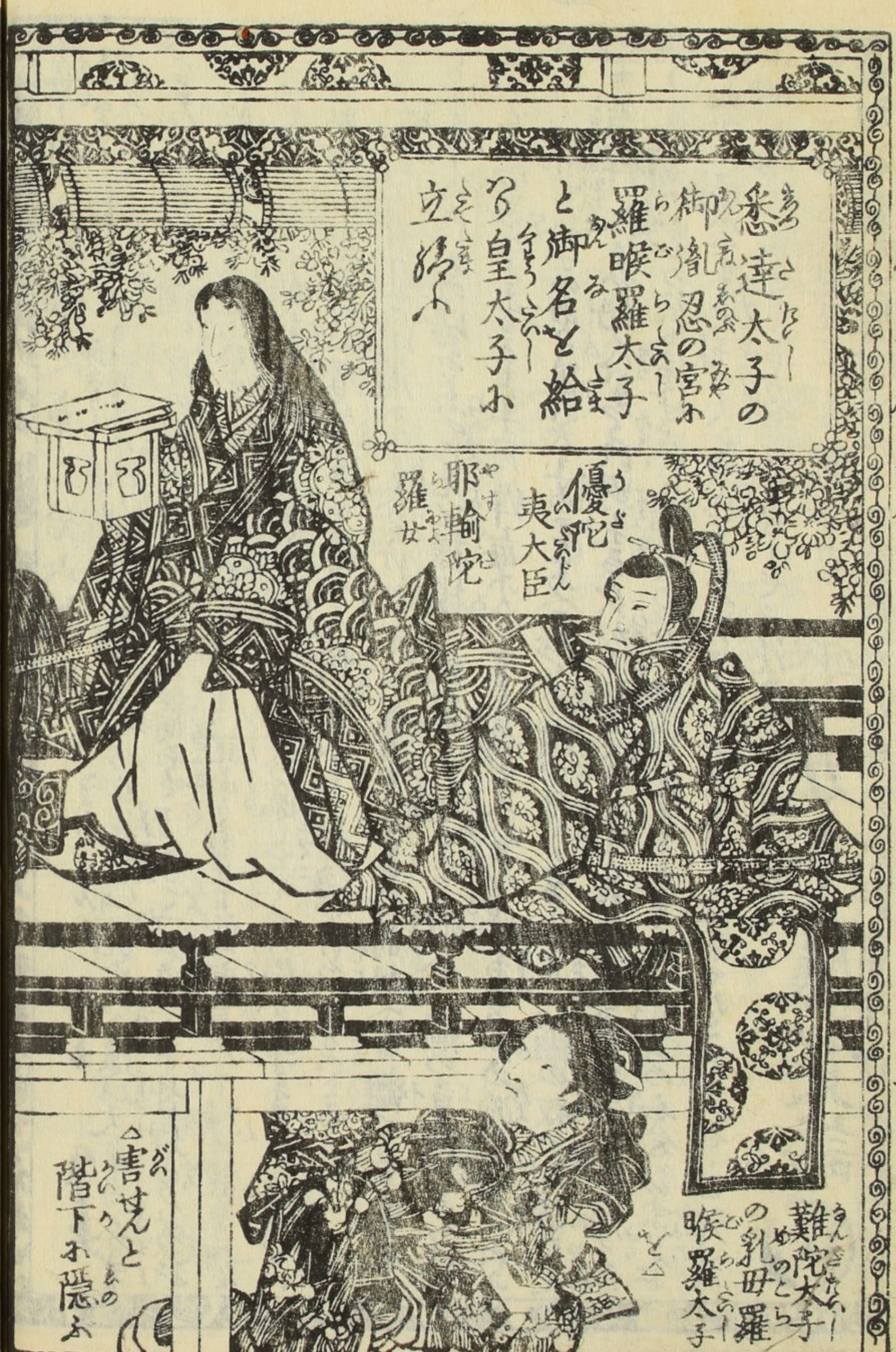
倭文庫二拾六



羅喉羅太子
 優陀夷の女房

耶輸陀羅女
 の局女中

曲り用也

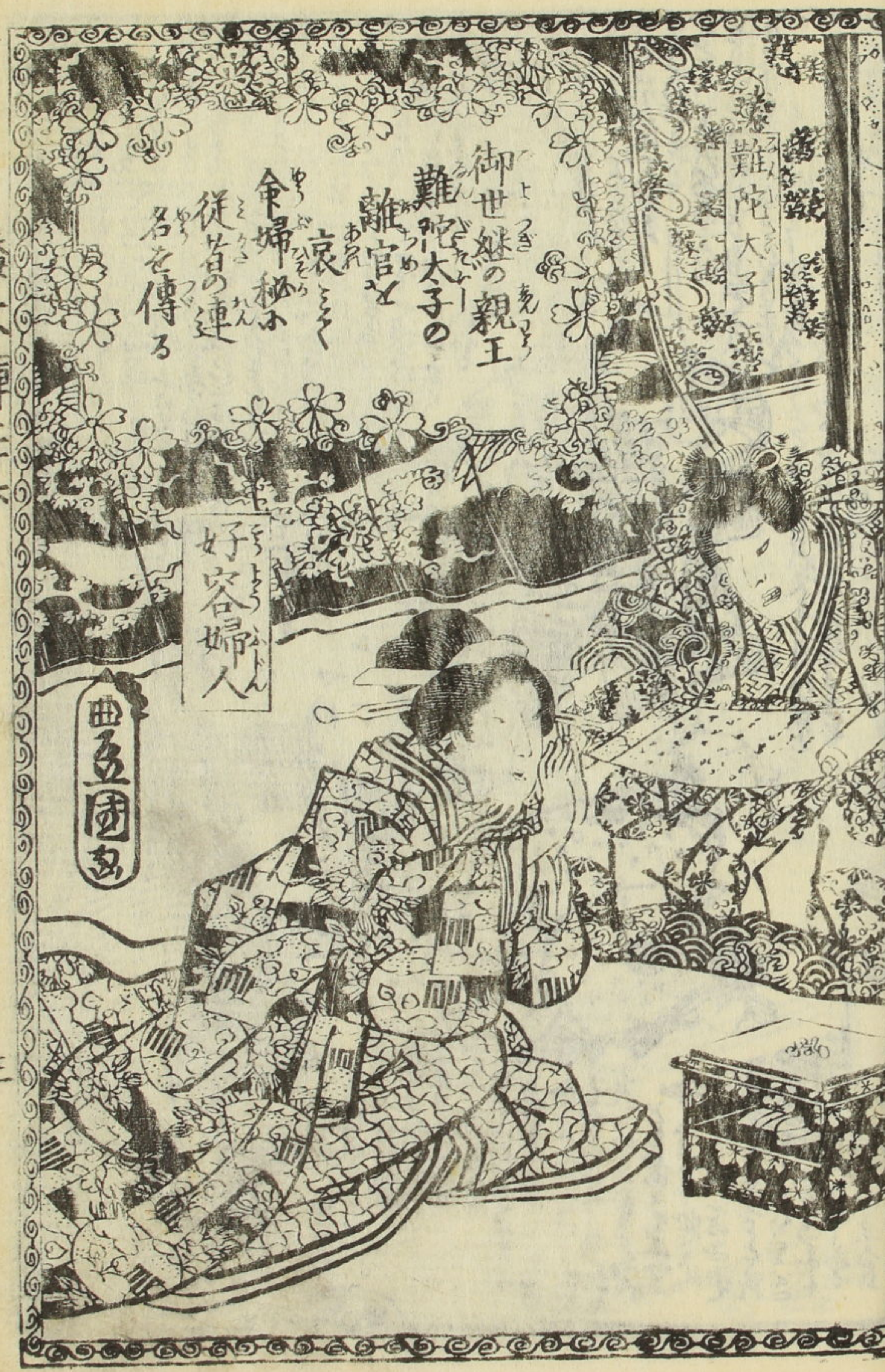


悉達太子の
 御胤忍の宮小
 羅喉羅太子
 と御名を給
 り皇太子小
 立給ふ

優陀夷大臣
 耶輸陀羅女

難陀太子
 の乳母羅
 喉羅太子

△害せん
 との
 階下隠ふ



難陀太子

御世継の親王

難陀太子の

離宮と

哀

命婦秘

従者の連

名を傳る

好容婦人

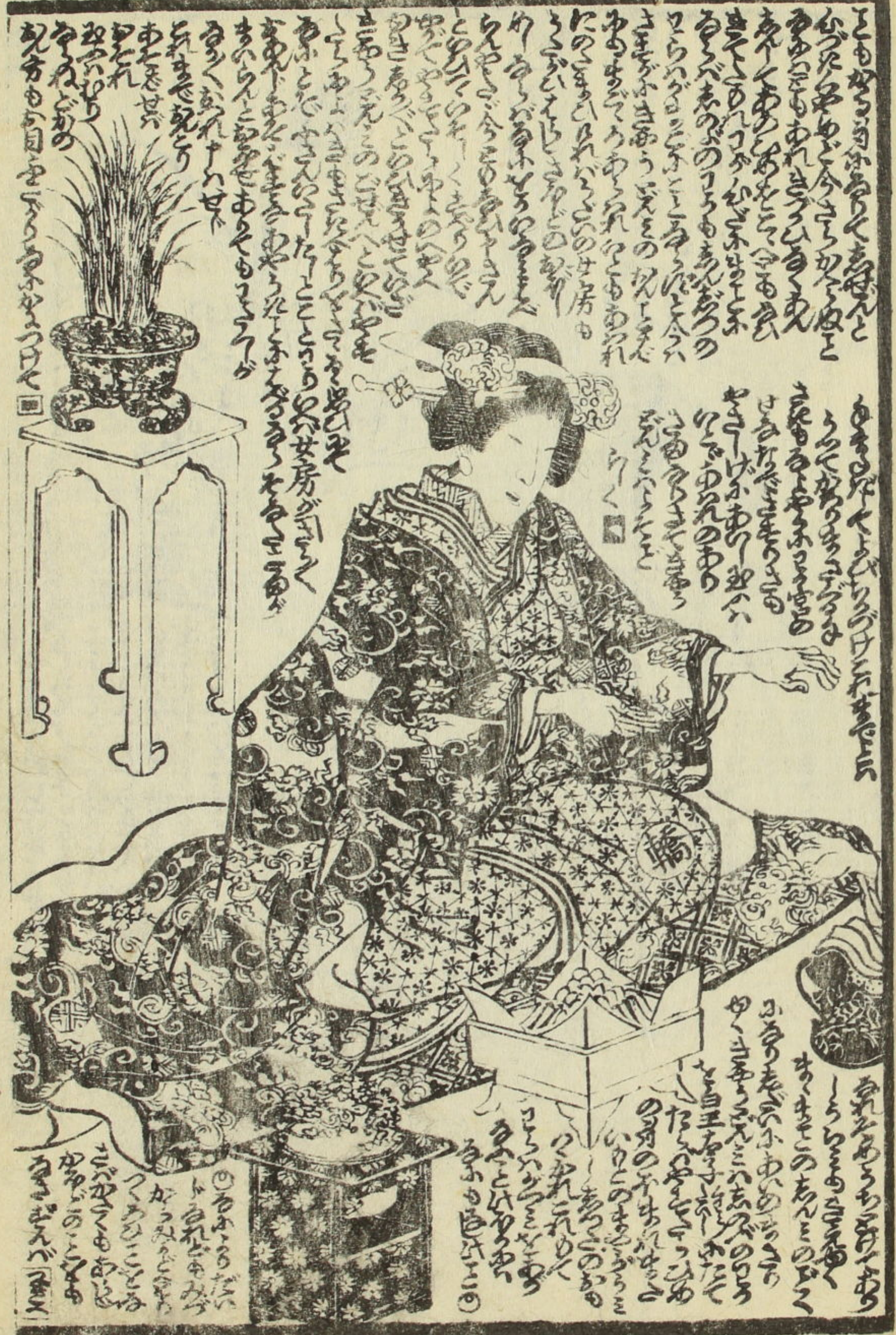
曲五団

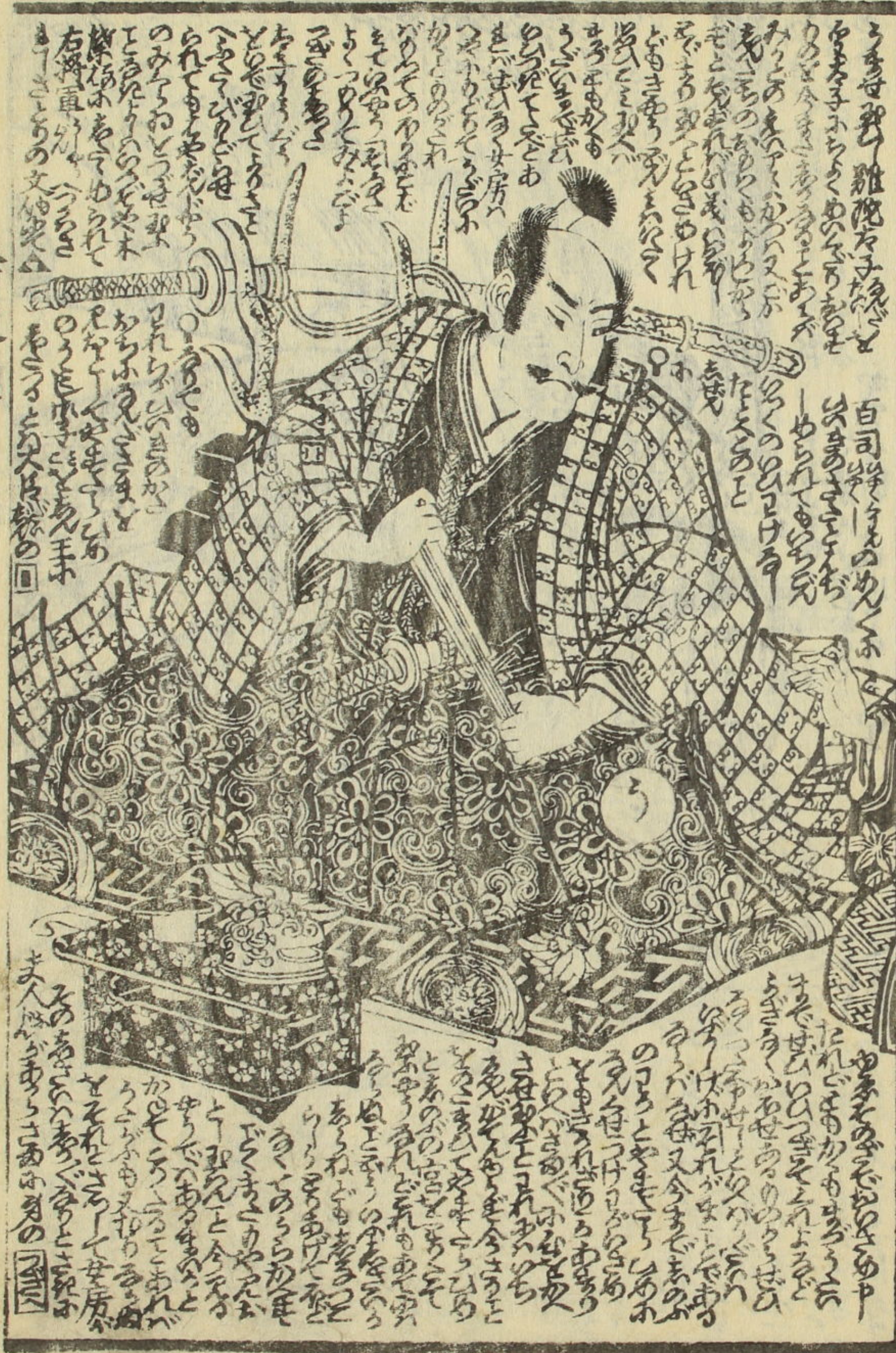
木下大輔

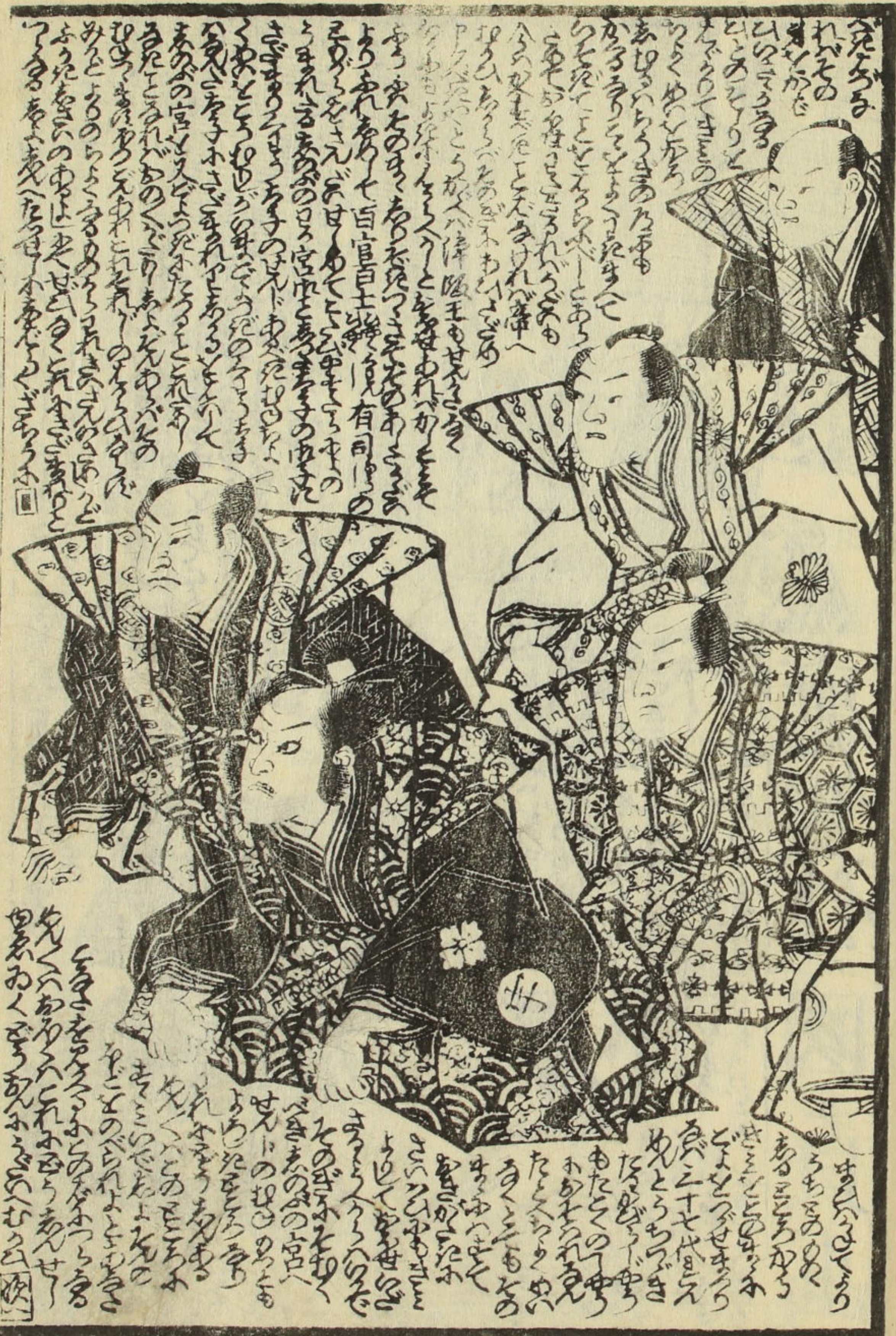


難陀太子の附人傳波離臣

命婦







Handwritten text in the left margin, likely a page number or a reference.

Handwritten text in the right margin, likely a page number or a reference.

嘉永七甲寅春新版日録

高祖朝日衣 一名日蓮記 二編 同 一勇齋國芳作	茶番案文 同 一陽齋豐國作	花山吹百人女郎 二初編 柳亭種彦作	譚柄瑠璃舞 一名朝顔首紙 三編 一陽齋豐國作	重井菱染別小紋 三編 為永春水作	赤松譚 九編 同 如淵外史作	神代毛月草 三編 同 一圓齋國磨作	倭文庫 廿七編 一陽齋豐國作
-------------------------------------	---------------------	-------------------------	---------------------------------	------------------------	-------------------------	----------------------------	----------------------



應賀作國貞画

倭文庫二十

十

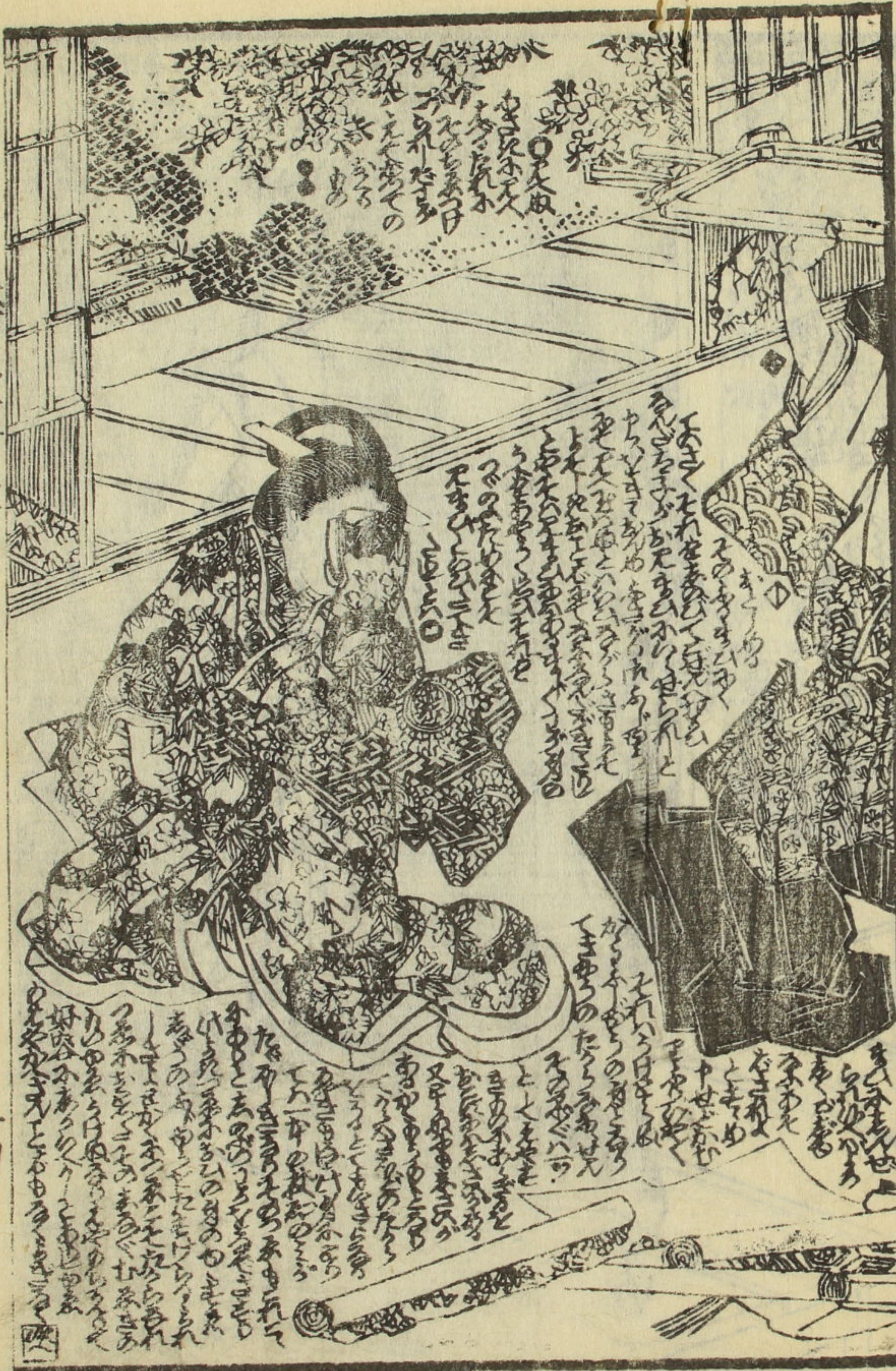
嘉永六年
丑春新刊



歌川國貞画

下





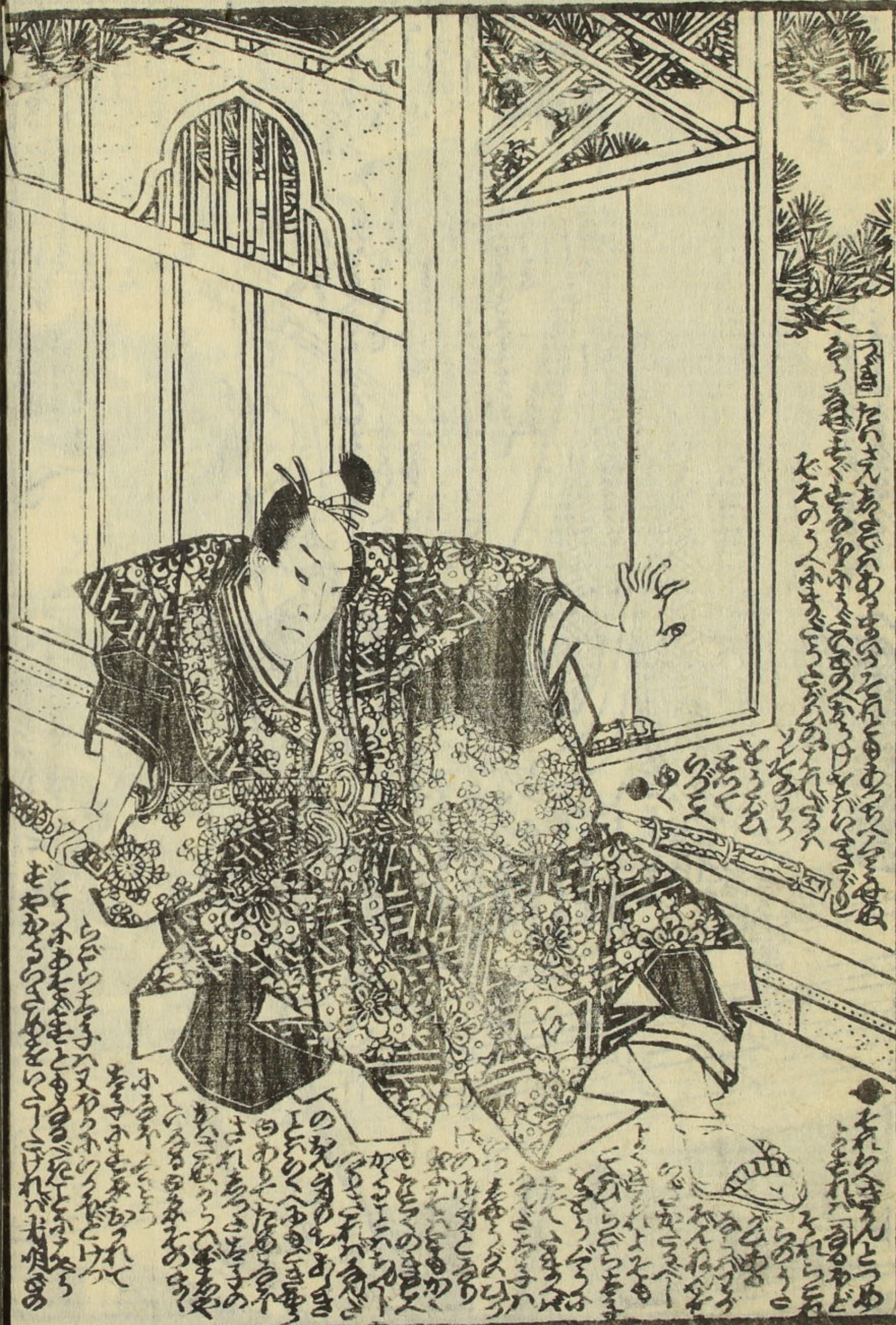
源氏物語 二十

十四





本段 文津 二十六



本段 文津 二十七



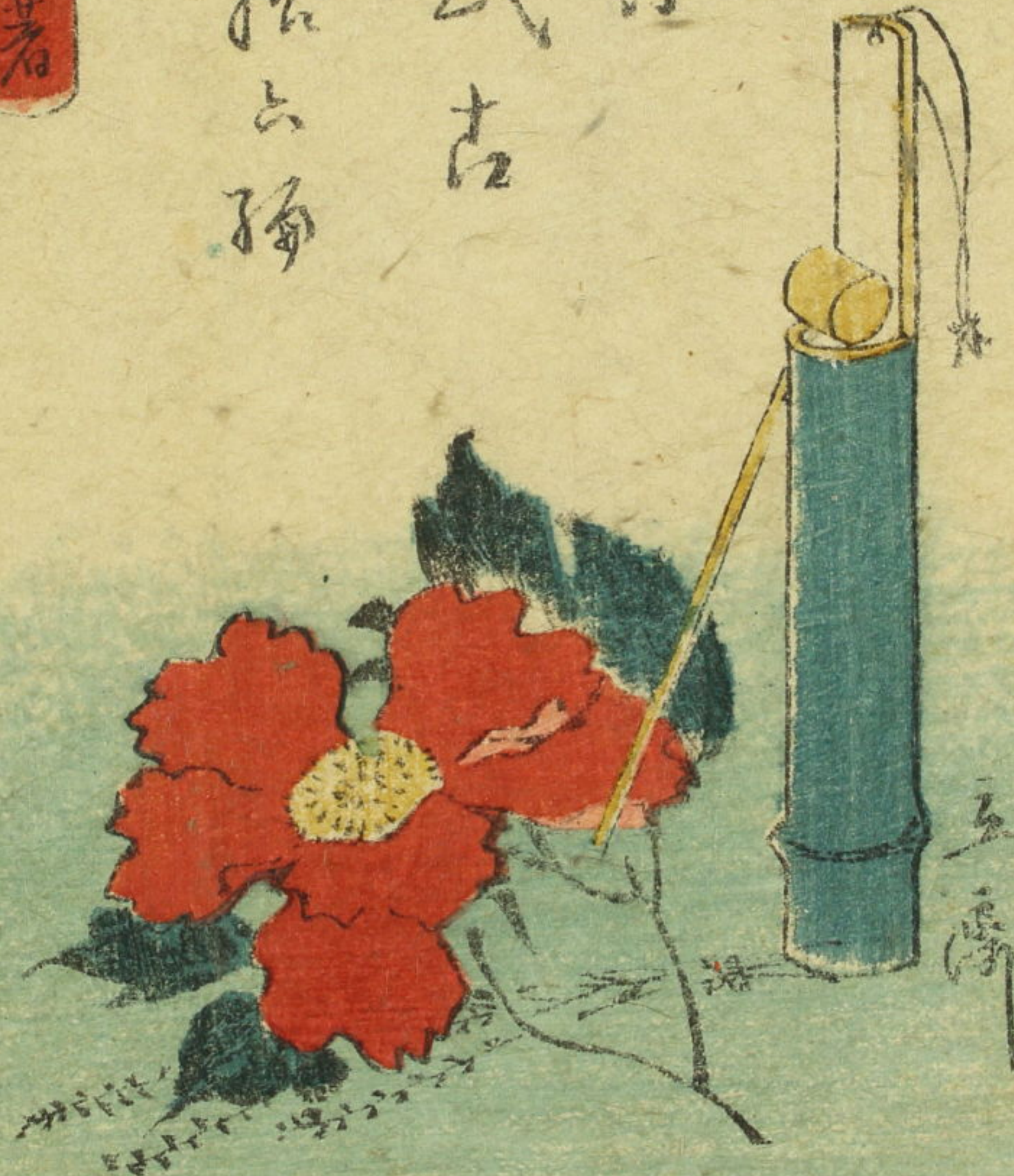
孫滿宗

吉武吉

一
二
三
六
孫

方亭在堂著
龍川園貞吉

錦堂堂梓



五
子